

東京芸術祭 2021

Tokyo Festival 2021

2021(令和3)年 9/1(水) - 11/30(火) 91日間

東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE(池袋西口公園野外劇場)、
東京建物 Brillia HALL(豊島区立芸術文化劇場)、
あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)ほか 東京・池袋エリア

東京芸術祭実行委員会事務局 広報担当(小倉、岡野、名取)

TEL : 050-1746-0996

FAX : 03-3478-7218

E-MAIL : press@tokyo-festival.jp

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28 九段ファーストプレイス8F アーツカウンシル東京内



国際舞台芸術祭「東京芸術祭 2021」

9月1日より東京・池袋エリアで開催!

東京芸術祭は、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し、2016年から毎年秋に、東京池袋エリアで開催している都市型の総合芸術祭です。東京の文化の魅力を分かりやすく見せると同時に東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。中長期的には社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そしてグローバル化への対応を視野に入れ、幅広いジャンルの公演事業、アートプロジェクト、また芸術分野で国際的に活躍する人材育成事業を展開しております。

2021年のテーマは「歴史のまばたき」

〈いま、わたしたちは「歴史のまばたき」のただ中にいます。まばたきのあと、世界はどう見えるでしょうか。変わったこと、変わらなかったこと。変えるべきこと、変えてはいけないこと。「新しくなろう」とする力と「もとに戻ろう」とする力が体の中でせめぎあうときこそ、舞台芸術が跳躍する瞬間です。〉と総合ディレクター宮城聡氏は語っています。

総合ディレクターとプランニングチームの協働体制

東京芸術祭の特色の一つに、総合ディレクターを置き、総合ディレクターが任命する事業ディレクターとで「プランニングチーム」を形成し、事業を運営していく運営体制があります。2021年は、2018年からの1期目に続き宮城聡氏（演出家／SPAC 静岡県 舞台芸術センター芸術監督）が2期目に就任することが決まりました。また、事業ディレクターが担う役割を具体化し、宮城氏をサポートする副総合ディレクター、共に東京芸術祭全体のプログラミングを担う共同ディレクター、豊島区事業を担当する豊島区事業ディレクター、そして世界の演劇界の動向や文献資料に精通したリサーチディレクターを配し、役割を徹底することで芸術祭のより一層の充実を図ってまいります。

事業の2本柱を設定

舞台芸術の上演・配信・地域を巻き込む催しなどから成る「東京芸術祭プログラム」と、人材育成事業「東京芸術祭ファーム」との、2本の柱で構成する構造に事業を再編しました。それぞれが役割を明確にし、有機的につながることで、芸術祭のミッションの実現を果たしてまいります。

太陽劇団（テアトル・デュ・ソレイユ）

『金夢島 L'ÎLE D'OR KANEMU-JIMA』（仮題）と

野外劇『ロミオとジュリエット』の2作品に注目

『金夢島 L'ÎLE D'OR KANEMU-JIMA』（仮題）は世紀をまたぐ世界的演出家アリアーヌ・ムヌーシュキンが率いるフランスの「太陽劇団（テアトル・デュ・ソレイユ）」による20年ぶりの招聘作品です。世阿弥の足跡を求めた佐渡への訪問や、日本の芸能文化を精力的にリサーチして構想が固められた新作で、現代演劇の歴史に新たなページが刻まれる、圧巻のスペクタクルが期待されます。

野外劇『ロミオとジュリエット』は GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）というひらかれた空間で誰もが気軽に鑑賞できる作品で、「芝居にまったく興味ない人でも、ついつい立ち寄りたくなるようなものにした」という宮城総合ディレクターの思いが込められています。誰もが知る名作をオーディションで選ばれた阿久津仁愛、川原琴響をはじめとする精鋭キャストで青木豪がどのように仕上げるのか、ご注目ください。

アクセシビリティのより一層の拡充

あらゆる人が文化・芸術の魅力を共感し合えるアクセシビリティを充実させるため、観賞の補助をする視覚障害者のための音声ガイドや聴覚障害者のための字幕、子育て中の親のアート鑑賞と、こどものアート体験を両立させる託児プログラムなどに取り組みます。

東京芸術祭 2021 プログラム

芸劇オータムセレクション

演劇

太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)

『金夢島 L'ÎLE D'OR KANEMU-JIMA』(仮題)

作：太陽劇団＋エレヌ・シクスー
演出：アリアーヌ・ムヌーシュキン
音楽：ジャン＝ジャック・ルメートル

10/19(火)－10/28(木) (予定)

東京芸術劇場プレイハウス



日本の伝統文化に着想を得た待望の最新作で、 現代演劇の歴史に新たなページが刻まれる。

太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ) は 1964 年にフランスで旗揚げされ、演出家アリアーヌ・ムヌーシュキンを中心に現在も精力的に舞台創造を続けています。新作の発表のたびに現代演劇シーンの話題を独占する唯一無二の劇団が、ついに今秋、20 年ぶりに日本にやって来ます。

ムヌーシュキンはかねてより歌舞伎や文楽などの日本文化に強い関心を持ち、その要素を演出作品に取り入れてきました。2019 年に京都賞を受賞して来日した際には、能の開祖的存在・世阿弥の足跡を求め佐渡を訪問。さらに歌舞伎や大衆演劇から演歌に至るまで、日本の芸能文化を精力的にリサーチし、新作の構想を固めました。帰国後も日本の伝統文化の担い手たちとリモートで交流を行い、作品を練り上げたと言われています。太陽劇団のパリの本拠地は劇場、アトリエ、食堂、住居までを備え、訪れた人々を魅了する舞台芸術の理想郷と言われています。そこで生み出される圧巻のスペクタクルは、間違いなく世界演劇史に刻まれるものとなることでしょう。太陽劇団の来日、それはまさに本年最大の演劇の事件です。どうぞご期待下さい。

太陽劇団 たいようげきだん

太陽劇団は 1964 年にフランスで設立。“集団創作”という独自スタイルで知られ、パリ郊外のカルトゥーシュリ (弾薬庫跡) を拠点に活動している。70 年に上演されたフランス革命を題材とした『1789』は斬新な演劇手法で、世界的注目を集めた。古典から現代の難民問題を扱った作品まで幅広いレパートリーを持つ。2001 年に『堤防の上の鼓手』(新国立劇場) で待望の初来日を果たし、アジアの人形劇、特に日本の文楽のエッセンスを大胆に取り入れた作品が大きな話題を呼んだ。

アリアーヌ・ムヌーシュキン

1939 年パリ生まれ。59 年ソルボンヌ大学在学中に演劇集団 A.T.E.P.(パリ学生演劇協会) を結成。64 年に A.T.E.P. のメンバーを中心に太陽劇団を設立。以後半世紀以上に渡り、ピーター・ブルックらと並び現代演劇の第一線で演出家として活躍している。80 年代からのシェイクスピア作品、90 年代からのギリシャ悲劇の連続公演でも話題を集め、さらにアジア演劇の身体的技法を取り入れた表現でも注目を浴びてきた。また映画『1789』『モリエール』といった監督作品もある。これらの長年にわたる功績が評価され、2019 年に第 35 回京都賞 (思想・芸術部門) を受賞した。



Photo: 安藤理樹

野外劇 『ロミオとジュリエット』

作：ウィリアム・シェイクスピア
訳：松岡和子
上演台本・演出：青木 豪

出演：

阿久津仁愛 川原琴響
谷田奈生 塚越健一 みしまりよ 柳内佑介
齋藤千裕 近藤 廉 末次由樹 友田宗大
井上 平 滝本 圭 河口勇太郎
明樂哲典

10/17 (日) – 10/24 (日)

GLOBAL RING THEATRE (池袋西口公園野外劇場)

毒になる、薬にはならぬ

劇場を「ひらく」アクションとして、ワンコインで観劇することが出来る高品質な演劇、をコンセプトとして上演してきた東京芸術祭の野外劇、4年目となる今年は、シェイクスピア作・松岡和子訳の「ロミオとジュリエット」を上演します。演出は昨今様々な話題作を手掛け、バラエティに富んだ作風に定評のある青木豪を迎え、総応募者 945 名のフルキャストオーディションで選ばれた出演者 14 名でお送りします。

今回の「ロミオとジュリエット」のコンセプトは、「女系一家・モンタギュー vs 男系一家・キャピュレット」。ロミオを筆頭にモンタギュー家の配役を女性が、ジュリエット以下キャピュレット家の配役を男性が、それぞれ演じます。会場は昨年に引き続き GLOBAL RING THEATRE (池袋西口公園野外劇場)。舞台を中世のイタリア・ヴェローナからここ 2021 年の池袋に移して繰り広げられる、若い生命が煌めく悲劇を、ぜひ皆様ご堪能ください。

青木 豪 あおき・ごう

1967 年生まれ、神奈川県出身。

「演劇集団・演劇研究所」卒業後、97 年に『アフタースクール』で「劇団グリーン」を旗揚げ。以後 14 年の解散まで全 18 公演の作・演出を務める。現在はプロデュース公演や他劇団へと、バラエティに富んだ作品を提供する。2009 年に脚本を手がけた HTB スペシャルドラマ『ミエルヒ』で第 47 回ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞、10 年 NHK-FM シアター『リバイバル』で ABU 賞受賞、11 年の『往転 - オウテン』の演出で第 66 回文化庁芸術祭新人賞を受賞している。12 年 9 月から 13 年 7 月まで、文化庁新進芸術家派遣制度によりロンドンに留学。17 年には『極付印度伝 マハーバーラタ戦記』で歌舞伎に新作を書き下ろし、18 年春には劇団四季の新作海外ストレートプレイ『恋におちたシェイクスピア』の演出を担当するなど、その活動は多岐にわたっている。近年の主な舞台作品に『両国花錦闘士』(作・演出、2020 年)、『銀河鉄道の父』(演出、2020 年)、『十二夜』(演出、2020 年)、音楽劇『星の王子さま』(脚本・作詞・演出、2020 年)、『相対的浮世絵』(演出・19)、椿組『芙蓉咲く路地のサーガ〜熊野にありし男の物語〜』(脚本・演出、2019 年)、音楽劇『マニアック』(作・演出、2019 年)など。



観劇サポート講座

豊島区事業

レクチャー

講師：
 廣川麻子
 (観劇支援団体シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)
 美月めぐみ
 (バリアフリー演劇結社ぱっかりぱっかり所属女優、バリアフリー映画鑑賞推進団体 CityLights 副代表)
 鈴木橙輔
 (バリアフリー演劇結社ぱっかりぱっかり主宰、バリアフリー映画鑑賞推進団体 CityLights 所属ディスクライバー)
 ほか調整中

9/1(水)、9/4(土)(予定)

あうるすぽっと会議室

文化施設でのアクセシビリティを考え、実践する

受付に障害をお持ちの方がいらっしゃった際に「どう対応すれば良いのか分からなかった」そういった経験をお持ちではないですか？
 「障害者差別解消法」や「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、障害者の皆さまが文化施設に安心してご来場できる環境作り「アクセシビリティ」の必要性が高まってきています。
 本講座では視覚・聴覚障害当事者から、障害とはどういったことなのか・どのような対応をするとバリアが解消されるかを学び、アクセシビリティの向上を目指します。

廣川麻子 ひろかわ・あさこ

1994年日本ろう者劇団入団。1995年和光大学卒業。2009年1年間英国にて研修。2012年観劇支援団体シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net)設立。全国各地で啓発活動を展開している。平成27年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2016年第14回読売福祉文化賞(一般部門)をTA-netとして受賞。文化庁障害者文化芸術活動推進有識者会議構成員(2018年度)、ほか委員を歴任。2018年より東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野ユーザーリサーチャーとして観劇支援の研究に取り組む。

美月めぐみ みづき・めぐみ

1964年福島県生まれ。先天性の視覚障害。1985年筑波大学附属盲学校卒。1995年「こぼこの会」で、朗読劇に出演しつつ、脚本・演出・劇中歌の作詞・作曲も担当。2006年より鈴木橙輔に師事。現在、バリアフリー演劇結社ぱっかりぱっかり所属の女優として活動中。バリアフリー映画鑑賞推進団体「CityLights」副代表。自身、35年来の演劇ファンとして、劇場にも足繁く通っている。



Photo: HARU

近藤良平・コンドルズ『にゅ～盆踊り』

豊島区事業

ダンス

構成・振付：近藤良平

9/23(木・祝)

東京建物 Brillia HALL
 (豊島区立芸術文化劇場)

新しい盆踊りを一緒に踊ろう

『にゅ～盆踊り』は、2008年に開始以来、豊島区の夏の風物詩として多くの方々から愛されています。昨年は例年通りの開催はできませんでしたが、今だからこそ出来ること、年を経ることにより発展し、人々に浸透していくため、ソーシャルディスタンスを取りながらも距離を楽しむ新しい盆踊りの振付を近藤良平氏に委嘱。「誰でも・どこでも・自由に」楽しめる新プロジェクト、『にゅ～盆踊りNEO』として開催。2021年は、事前ワークショップに参加して、最後は東京建物 Brillia HALL(豊島区立芸術文化劇場)で踊りましょう!

近藤良平 こんどう・りょうへい

コンドルズ主宰。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。第67回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。第67回横浜文化賞受賞。TBS系列『情熱大陸』、NHK総合『地球イチバン』等出演。NHK教育『からだであそぼ』内「こんどうさんちのたいそう」、NHK総合『サラリーマンNEO』内「テレビサラリーマン体操」などで振付出演。NHK連続テレビ小説『てっぺん』オープニング振付も担当。NHK大河ドラマ『いだてん』ダンス指導、「私立恵比寿中学」振付など、映画、TV、PV、CMなど、振付多数。



Photo: 川面健吾

みんなのシリーズ第六弾 能でよむ～漱石と八雲～

安田 登(下掛宝生流ワキ方能楽師)
玉川奈々福(浪曲師)
塩高和之(琵琶奏者)
聞き手: 木ノ下裕一(木ノ下歌舞伎主宰)

演目
『夢十夜』より「第一夜」原作: 夏目漱石
『吾輩は猫である』鼠の段 原作: 夏目漱石 手話付き上演
『破られた約束』原作: 小泉八雲

10/3(日)

あうるすぽっと

観劇サポートつき

・みえない・みえづらいお客様
(1) 鑑賞を補助する音声ガイドをご利用いただけます。
(2) ご希望の方には東京メトロ有楽町線「東池袋駅」からの送迎をご利用いただけます。

・きこえない・きこえづらいお客様

(1) ポータブル字幕機をご利用いただけます。
※トーク中は舞台上で手話通訳あり
(2) 舞台音声を磁気ループ・骨伝導ヘッドフォンへ伝える携帯型受信機をご利用いただけます。

二つの聲と三味線・琵琶の音色で紡ぐ「語り」の世界

あうるすぽっとのほど近く、夏目漱石の小説「こゝろ」の舞台にもなった豊島区の雑司ヶ谷霊園には、明治時代を代表する二人の文豪、夏目漱石と小泉八雲のお墓があります。本企画は、ここからスタートしました。実は、漱石と八雲には幾つかの共通点があることをご存知でしょうか。そのひとつが「能」でした。漱石は長く能の謡を趣味として続けており、八雲は叶えられませんでした。能の翻訳集を出版したがっていたほどと言われています。二人も愛した「能」というフィルターを通して、浮かび上がる数々の謎解きをお楽しみください。

安田 登 やすだ・のぼる

1956年千葉県生まれ。高校時代、麻雀をきっかけに甲骨文字と中国古代哲学への関心に目覚める。高校教師時代に能と出会う。ワキ方の重鎮、鎗木孝男師の謡に衝撃を受け、27歳で入門。現在は、能楽師のワキ方として国内外を問わず活躍し、能のメソッドを使った作品の創作、演出、出演などを行うかたわら、『論語』などを学ぶ寺子屋「遊学塾」を、東京を中心に全国各地で開催。日本と中国の古典の「身体性」を読み直す試みにも継続して取り組んでいる。『能——650年続いた仕掛けとは』(新潮新書)、『異界を旅する能』(ちくま文庫)、『身体感覚で「論語」を読みなおす。』(新潮文庫)など著書多数。

塩高和之 しおたか・かずゆき

文化としての琵琶楽を標榜し、伝統的な雅楽古典曲から薩摩琵琶の現代曲まで幅広く琵琶楽を捉え、作曲・演奏の両面に於いて国内外で活動をしている。2007年に、様々な琵琶楽を「文化」という視点で紹介する琵琶楽人倶楽部を設立。これまで、長唄の人間国宝 故真山左衛門師、能シテ方重要無形文化財「能楽」保持者 津村禮次郎師、日本舞踊 花柳面師をはじめ、数多くのアーティストと共演を重ね、現在、楽琵琶・薩摩琵琶共にCDを発表し、演奏活動を続けている唯一の琵琶奏者である。

玉川奈々福 たまがわ・ななふく

1995年、曲師として故・二代目玉川福太郎に入門。師の勧めにより2001年より浪曲師としても活動。2006年、芸名を奈々福に改め名披露目。さまざまな浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作浪曲も多数手掛け、他ジャンルの芸能との交流も行う。平成30年度文化庁文化交流使として、イタリア、スロベニア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、キルギス、ウズベキスタンの七か国で公演を行った。第11回伊丹十三賞受賞。

木ノ下裕一 きのした・ゆういち

1985年和歌山市生まれ。2006年、京造形芸術大学在学中に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。2016年に上演した『勳進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。第38回(令和元年度)京都府文化賞奨励賞、令和2年度京都市芸術新人賞受賞。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。



Photo: 川面健吾

みんなのシリーズ第六弾 能でよむ～漱石と八雲～ スペシャルトーク

安田 登
木ノ下裕一
トークゲスト: いうせいこう

さまざまな角度から堪能できる贅沢なトーク

昨年、「みんなのシリーズ第五弾『能でよむ～漱石と八雲～』」は、演目を一新して、新型コロナウイルス感染拡大防止のため「おうちで見よう! あうるすぽっと 2020 夏」の一環として動画配信を行いました。配信をより楽しむためスペシャルトークが大変好評をいただき、今年は劇場でたっぷりとお話しいただきます。今回もトークゲストとして能の愛好家・研究者としても知られ、自身も謡を嗜む いうせいこう を迎えます。お楽しみに!

10/3(日)

あうるすぽっと

いうせいこう

1961年生まれ、東京都出身。1988年に小説「ノーライフ・キング」でデビュー。1999年、「ポタニカル・ライフ」で第15回講談社エッセイ賞受賞、「想像ラジオ」で第35回野間文芸新人賞受賞。近著に「鼻に挟み撃ち」『「国境なき医師団」を見に行く』『ど忘れ書道』『ガザ、西岸地区、アンマン』『福島モノローグ』などがある。テレビのレギュラー出演に「ビットワールド」(Eテレ)、「フリースタイルティーチャー」(テレビ朝日)、「トウキョウもっと! 2元気計画研究所」(TOKYO MX)、「テレビ見仏記」(関西テレビ)などがある。

東京芸術祭プロデュース

演劇

パフォーマンス



東京芸術祭 2020 APAF Exhibition「フレフレ Ostrich!! Hayupang Die-Bow-Ken !」
ワークインプログレス公演
Photo: Kazuyuki Matsumoto

From the Farm 『フレフレ Ostrich!! Hayupang Die-Bow-Ken !』

参加アーティスト：
ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ
Aokid
額田大志

10/6(水) - 10/8(金)

南大塚ホール

APAF2020の若手によるワークインプログレスが結実 オンラインと劇場を跨ぐハイブリッド演劇

東京芸術祭 2020 APAF Exhibition で注目された作品をリクリエーションした本作は、オンライン&南大塚ホール、2つの会場をつないで行われるハイブリッド作品です。劇場公演のオンライン配信でもなく、オンライン演劇でもない新しい体験がアジアの若手アーティストの協働で生まれます。

ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ

1986年生まれ。演劇、映画、パフォーマンスなど多岐に渡る制作活動を行う。作品に、聴覚障害者のエンパワーメントをテーマにした『Hear, Here!』や、ドラッグクイーンに焦点を当て HIV 感染者に対する差別撤廃を訴える『Reign-Bow』、フィリピン人海外出稼ぎ労働者の苦境を描く『Maikling Dasal, Mahabang Gabi』など。マニラに拠点を置くコンテンポラリーパフォーマンスカンパニー The Scenius Pro. 芸術監督。コロナ禍での創作・記録のためのオンラインプラットフォーム Artists On Q メディア主任兼ディレクター。アンゴノの芸術高等学校で舞台芸術を指導。演劇フェスティバル Virtual Labfest 2020 (オンライン開催) で作品発表。APAF2019 Lab の参加者。

額田大志 ぬかた・まさし

1992年生まれ。作曲家、演出家。演劇カンパニー・ヌトミック、8人組バンド・東京塩麹主宰。「上演とは何か」という問いをベースに、音楽のバックグラウンドを用いた脚本と演出で、パフォーマンスの枠組みを拡張していく作品を発表している。俳優のみならずダンサー、ラッパー、映像作家などとのコラボレーションも積極的に行う。第16回 AAF 戯曲賞大賞、こまばアゴラ演出家コンクール 2018 最優秀演出家賞受賞。作曲家として、JR 東海『そうだ 京都、行こう。』を始めとする広告音楽や、市原佐都子『パッコスの信女 - ホルスタインの雌』（あいちトリエンナーレ 2019) などの舞台音楽も数多く手掛ける。

www.nukata.tokyo

Aokid アオキッド

1988年生まれ。ダンサー、アーティスト。AokidCity、どうぶつえん主宰。20歳までブレイクダンサーとして活動後、美術や上演作品の制作を開始。パフォーマンスアートや音楽家、美術作家など他ジャンルの作家と様々な形で共同制作を行う。公園に集い移動しながら発表をし合う活動「どうぶつえん」や「ストリートライブ&ビール」により、パフォーマンスの力を用いた東京でのふるまいの拡張を積極的に提案している。『フリフリ』(橋本匠との共作)にて2016年横浜ダンスコレクションコンペティション I 審査員賞受賞。2018年夏、Bangkok Biennial にて篠田千明との共作『Tiger, Tiger』を発表。

ninjaaokid16.wixsite.com/aokid

※本プログラムは東京都の芸術文化活動支援事業「アートにエールを！東京プロジェクト」参加アーティストの出演する企画です。



photo: 黒田菜月

10/8(金) - 11/7(日)

ガリ版印刷発信基地 / ZINE スタンド
/ Pop-up 印刷トラック(豊島区内各所)
/ Pop-up ZINE スタンド(豊島区, 全国各所)

Hand Saw Press 『つながる！ガリ版印刷発信基地』

FT レーベル

アートプロジェクト

ディレクション：Hand Saw Press

去年、一昨年と、誰もが気軽に立ち寄れる表現と交流の場として大好評を博した「ガリ版印刷発信基地」が、今年も大塚にオープン。ZINE(手づくりの少数冊子)を制作・入手・交換できるスポットが、印刷機をのせたトラックとともに豊島区各所に出張します。また Pop-up ZINE スタンドも全国展開予定です。

Hand Saw Press ハンド・ソウ・プレス

リソグラフの印刷機と木工工具のある D.I.Y スペース。建築家の菅野信介(アマラブ)、空間デザイナーの安藤僚子(デザインジカ)、食店主の小田晶房(map / なぎ食堂)という、バックグラウンドも得意分野も異なる3人が、東京と京都の2拠点で活動。本や ZINE の出版、ポスターやアートブックの印刷、日曜大工など、場所とツールを町にひらくことで、人、都市、世界のいまにつながるものづくりを続ける。

<https://handsawpresstokyo.com/>



四角い2つのさみしい窓 (2020) より 撮影: 三上ナツコ

口口

『Every Body feat. フランケンシュタイン』

原作: メアリー・シェリー「フランケンシュタイン」
脚本・演出: 三浦直之(口口)

10/9(土)(予定) - 10/17(日)
後日アーカイブ配信あり

東京芸術劇場シアターイースト

演劇だけでなく、映画やドラマの脚本での活躍も目覚ましい三浦直之が挑む新作は、口口版『フランケンシュタイン』。体と心の腐敗と発酵とは何なのか。天才博士の手によって死者のつぎはぎで生まれる怪物は、はたして「悪しき存在」なのか。ポップカルチャーをサンプリングしてきた彼らのシリアスな新境地となるでしょう。

三浦直之 みうら・なおゆき

口口主宰。劇作家。演出家。2009年、主宰として口口を旗揚げ。「家族」や「恋人」など既存の関係性を問い直し、異質な存在の「ボーイ・ミーツ・ガール=出会い」を描く作品をつくり続けている。古今東西のポップカルチャーを無数に引用しながらつくり出される世界は破天荒ながらもエモーショナルであり、演劇ファンのみならずジャンルを超えて老若男女から支持されている。ドラマ脚本提供、MV監督、ワークショップ講師など演劇の枠にとらわれず幅広く活動。『ハンサムな大悟』で第60回岸田國士戯曲賞最終候補作品ノミネート。2019年脚本を担当したNHKによるドラマ『腐女子、うっかりゲイに告(コク)る。』で第16回コンフィデンスアワード・ドラマ賞脚本賞を受賞。

口口

劇作家・演出家の三浦直之が主宰を務める劇団。2009年結成。古今東西のポップカルチャーをサンプリングしながら既存の関係性から外れた異質な存在のボーイ・ミーツ・ガール=出会いを描き続ける作品が老若男女から支持されている。15年に始まった『いつ高』シリーズでは高校演劇活性化のための作品制作を行うなど、演劇の射程を広げるべく活動中。主な作品として『LOVE02』(12年)、『ハンサムな大悟』(15年)、『はなればなれたち』(19年)、『四角い2つのさみしい窓』(20年)など。『ハンサムな大悟』は第60回岸田國士戯曲賞ノミネート。
<http://loloweb.jp/>



『移動祝祭商店街 歩く庭』

パフォーマンスデザイン: セノ派(舞台美術家コレクティブ)
杉山 至、坂本 遼、佐々木文美、中村友美、鈴木健介、濱崎賢二

プロジェクト設計・リサーチ: 阿部健一

10/9(土) - 10/10(日)
※各地で事前ワークショップあり

豊島区内

舞台美術家コレクティブ「セノ派」による、まちなかのプロジェクト3年目。これまで地域のリサーチをベースに、初年度はパレード、昨年はコロナ禍に応じた1人でも楽しめるまち巡りやオンラインの企画を実施してきました。今年度は小さな「祝祭空間」を探して豊島区内を移動しながら、また新たな情景をつくりだします。

セノ派(舞台美術家コレクティブ)

舞台美術家によるコレクティブ。メンバーは杉山至、坂本遼、佐々木文美、中村友美、鈴木健介、濱崎賢二。戯曲や俳優を前提にするのではない、舞台美術を起点とした場面、情景の創造に取り組む。名称の「セノ」は、舞台美術、場面などを表す「セノグラフィー」に由来する。



CHAiroiPLIN 踊る戯曲Ⅳ『BALLO ～ロミオとジュリエット～』
撮影：福井理文 (Fukui Ribun)

10/14(木) - 10/17(日)

あうるすぽっと

※観劇サポート実施予定

おどる演劇『十二夜』(仮)

豊島区事業

演劇

原作：W. シェイクスピア
振付・構成・演出：スズキ拓朗 (CHAiroiPLIN)

シェイクスピア × ダンス × 演劇！
パワフルでエンターテインメントな『十二夜』

振付家・演出家・ダンサーとして、近年幅広い活躍を見せるスズキ拓朗が、シェイクスピアの『十二夜』を、独自の視点と解釈で、大胆不敵に解体そして再構築！すれ違いや勘違いが入り組む名作喜劇をモチーフに、ダンスと演劇、そして映像や音楽など、様々な手法をクロスオーバーさせることで、独創的ながらも子どもから大人まで誰もが楽しめる、パワフルでエンターテインメントな一作をお届けします。

スズキ拓朗 すずき・たくろう

振付家、演出家、ダンサー。ダンスカンパニー「CHAiroiPLIN」(チャイロイプリン)主宰。

第46回舞踊批評家協会新人賞、第9回日本ダンスフォーラム賞、令和元年度文化庁芸術祭新人賞など受賞多数。セゾン文化財団シニア・フェロー。ダンスカンパニー「コンドルズ」にも所属、若手筆頭ダンサーとして活躍。NHK「みいつけた」振演出演、「文豪ストレイドックス」、帝国劇場、博多座ほか振付多数。コンテンポラリーダンスの未来開拓に全力を注いでいる。



photo by Riki Ishikura

10/22(金) - 10/24(日)
後日アーカイブ配信あり

あうるすぽっと

Baobab

FTレーベル

ダンス

『ジャングル・コンクリート・ジャングル』

振付・構成・演出：北尾 亘

北尾 亘が主宰を務め、国内外のさまざまなフェスティバルに参加してきたダンスカンパニー Baobab。2019年に結成10周年の節目として総勢21名で上演された本作は、原始から近未来までをダンスで駆け抜ける生命賛歌。今回、パンデミック後の世界へ向けて、東京芸術祭バージョンとしてリクリエーションします。

北尾 亘 きたお・わたる

幼少期よりミュージカルを中心に舞台芸術に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2006年桜美林大学入学以降、木佐貴邦子に師事。2009年ダンスカンパニー「Baobab」を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。単独公演ほか国内外のフェスティバルに多数参加。ダンスアーティストへ向けた主催フェスティバル『DANCE×Scrum!!!』では、自らディレクターを務める。振付家として、柿喰う客、KUNIO、ホノ下歌舞伎、ロロなど舞台作品のほか、NHK連続テレビ小説『半分、青い。』などTVドラマ、CM、映画にも振付を多数提供。ダンサーや俳優として、近藤良平、多田淳之介、杉原邦生、中屋敷法仁、山本卓卓などの作品に出演。俳優4人の演劇ユニット「さんびん」メンバーとしても活動。

「ベッシー賞(ニューヨーク・ダンス&パフォーマンス賞)」「OUTSTANDING PERFORMER部門」(2020年)ノミネート、横浜ダンスコレクション2018コンペティション「ベストダンサー賞」ほか、多数受賞。

Baobab パオバブ

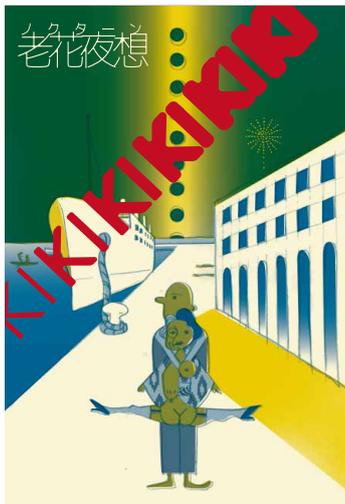
2009年旗揚げ。主宰北尾亘が全作品の振付・構成・演出を行う。

土着的でリズムカルな独特の躍動感を持つ振付で、圧倒的な群舞を踊り抜く。

過去12回の単独公演のほか、Dance New Air、San Francisco International Arts Festival 2018、KYOTO EXPERIMENT 2013公式プログラムなど、国内外様々なフェスティバルに参加。

若手アーティストによるダンスフェスティバル「DANCE×Scrum!!!」を2016年より隔年開催するなどダンス界の活性化を目指す企画運営も行っている。

<http://dd-baobab-bb.booo.jp/>



FT レーベル

ダンス

きたまり/KIKIKIKIKIKI 『老花夜想（ノクターン）』

作：太田省吾
振付・演出：きたまり

関西を拠点に活動し、古今東西のあらゆる素材からダンスを創作する振付家・ダンサーのきたまり。本作は、12人の登場人物が一夜の出来事を紡ぐ太田省吾の初期戯曲をふたりの身振りと邦楽器の生演奏で描き出し、演劇・ダンスの境界線に挑む意欲作です。

10/22 (金) - 10/24 (日)
後日アーカイブ配信あり

東京芸術劇場シアターウエスト

きたまり / Kitamari

17歳より舞踏家・由良部正美の元で踊り始め、2003年より自身の〈ダンスカンパニーKIKIKIKIKIKI〉主宰。2006年京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科卒業。近年はマラー全交響曲を振付するプロジェクトを開始し、2作目『夜の歌』で文化庁芸術祭新人賞(2016年度)を受賞。また長唄を使用し60分間ソロで見せる木ノ下歌舞伎『娘道成寺』、国指定重要無形文化財・嵯峨大念佛狂言のお囃子との共演『あたご』など、日本の伝統芸能を素材にした創作や、『We dance京都2012』『Dance Fanfare Kyoto』プログラムディレクターなど、ジャンルを越境した多岐にわたる活動を展開している。

<https://ki6dance.jimdofree.com/>



© 梁 丞佑

民俗芸能 in としま 2021 まつりのおとがきこえる

豊島区事業

民俗芸能

音楽

長崎獅子連、富士元囃子連中 ほか

10/31 (日)

GLOBAL RING THEATRE
(池袋西口公園野外劇場)

観て 聴いて 心で踊って 楽しもう！

豊島区の長崎獅子舞、富士元囃子、雑司ヶ谷鬼子母神御会式万灯練供養を中心とした郷土芸能の上演や、伝統を取り入れ新しい表現を志向するアーティストのライブパフォーマンスを野外ステージで開催。現地に足を運ばなくても楽しめるオンライン配信も行います。



としまおやこ小学校

YORIKO

11/13(土) - 12/5(日) (毎週土日)

あうるすぽっと会議室

親子、ときどき同級生。
子ども・大人・地域が一緒になって学び合う「小学校」。

美術家 YORIKO が 2016 年～2017 年に香川県高松市、2019 年には東アジア文化都市 2019 豊島・舞台芸術部門／アトカル・マジカル学園事業として実施し、多くの反響と感動を呼んだ『おやこ小学校』が今年も豊島区内で開校します。あうるすぽっとの会議室を教室に変身させ、親子が同級生となって遊んで学ぶ期間限定の「小学校」です。教壇に立つのは様々な仕事人や地域のスペシャリスト。普通の学校とはちょっと違う、親子で熱中できるユニークな授業を展開。家族の新しい一面が見える、楽しい交流の場を1ヶ月にわたり創出します。

YORIKO よりこ

1987年埼玉県生まれ、株式会社ニューモア代表・コミュニケーションデザイナー。様々な地域で「多世代・多業種の協働」をテーマに住民参加型のデザイン・アートプロジェクトに取り組む。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」「東京芸術祭 2020」などに参加。そのほか、自社事業として障害福祉 × デザインのチーム「想造楽工」の企画運営を行っている。



©新宮夕海

第34回としま能の会

能

狂言

構成：観世喜正

11/19(金)

東京芸術劇場プレイハウス

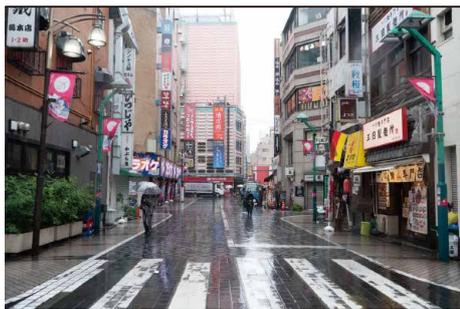
時空と歴史のまばたきを感じる幽玄世界

豊島区に所縁のある能楽界を代表する一流の演者による能楽公演。今年は「鬼」をテーマとした能「安達原」、狂言「首引」等の上演を予定。古来より日本人が「鬼」という摩訶不思議な存在にこめた悲喜憂苦の思いを幽玄世界でお楽しみください。

観世喜正 かんぜ・よしまさ

能楽師 観世流シテ方。

父・三世観世喜之に師事し、2歳半より舞台上立つ。本拠地である神楽坂の矢来能楽堂を中心に、国内外での公演に多数出演。全国で門弟の指導にもあたり、能楽協会理事としても能楽の振興・普及に努めている。能楽堂以外での公演のプロデュースも多数手掛け、歌舞伎・クラシックなど他ジャンルとの競演なども行なう。「としま能の会」には1992年より出演。2020年、豊島区文化栄誉賞を受賞。公益社団法人観世九阜会理事。公益社団法人能楽協会理事。重要無形文化財（総合認定）保持者。



東京芸術祭プロデュース

アートプロジェクト

『ガチャガチャガチャ』

ディレクター：遠山昇司
 エディター：影山裕樹
 リサーチ：立教大学社会学部 小泉元宏ゼミ

こんなところに!? カプセルトイとの偶然の出会いから知る、まちのあれこれ

1970年代に全国的に広まったカプセルトイ。硬貨を入れてハンドルを回すとおもちゃが入ったカプセルが「ガチャッ」と飛び出す仕組みは50年以上も親しまれています。このプロジェクトでは、映画監督の遠山昇司を中心に、豊島区にちなんだ東京芸術祭オリジナルを製作、あちこちに専用マシーンを設置します。思いもかけない場所での出会いにご期待ください。

調整中

豊島区内各所

遠山昇司 とおやま・しょうじ

映画監督、プロデューサー。早稲田大学大学院国際情報通信研究科修士課程修了。2012年、初の劇映画『NOT LONG, AT NIGHT 一夜はながくない』が第25回東京国際映画祭「日本映画・ある視点部門」に正式出品され、高い評価を得る。最新作『冬の蝶』は第33回テヘラン国際短編映画祭にてグランプリを受賞するなど海外でも高い評価を得ている。アートプロジェクト「赤崎水曜日郵便局」では局長・ディレクターを務め、2014年度グッドデザイン賞を受賞。精力的に映画制作を行いつつ、アートプロジェクトや舞台作品などの演出を手がけながら現在に至る。さいたま国際芸術祭2020ディレクター。



『The New Gospel – 新福音書 –』

FTレーベル

映像

ミロ・ラウ
 プロダクションカンパニー：
 フルーツマーケット・アーツ&メディア GmbH
 ラングフィルム/ベルナルド・ラン AG

作・監督：ミロ・ラウ

調整中

オンライン

NTヘント（ベルギー）の芸術監督として、現実と演劇の関係を更新し続ける演出家ミロ・ラウによる21世紀の福音書。パヴリーニの映画『奇跡の丘』のロケ地として知られるイタリアの町で、カメルーン出身の活動家とともに難民のための政治運動を立ち上げ、地元住民を巻き込みながら上演されたキリスト受難劇の映像版です。

ミロ・ラウ

ミロ・ラウは、演出家、作家であり、NTヘント（ベルギー）の芸術監督。パリ、ベルリン、チューリッヒで、社会学、ドイツ語、ロマンス語と文学を学ぶ。批評家からは「もっとも影響力のある」（Die Zeit）、「もっとも受賞歴の多い」（Le Soir）、「もっとも興味深い」（De Standaard）、「もっとも物議を醸す」（La Repubblica）、「もっともスキャンダラスな」（New York Times）、「もっとも野心的な」（The Guardian）現代の芸術家であると評される。2002年以降、50本以上の戯曲、映画、書籍、アクションを発表し、数々の賞を受賞。彼の演劇作品はあらゆる主要な国際フェスティバルで上演され、世界30ヶ国以上をツアーしている。彼の映画作品（『Die letzten Tage der Ceausescus（チャウシェスク最後の日々）』『Hate Radio』『Die Moskauer Prozesse（モスクワ裁判）』『Das Kongo Tribunal（コンゴ裁判）』など）は、多くの賞を受賞しており（ドイツ映画祭特別賞、チューリッヒ映画賞、アムネスティ・インターナショナル賞など）、『Das Kongo Tribunal（コンゴ裁判）』は、ドイツやスイスの映画賞にノミネートされ、「ミロ・ラウは映画界に名誉をもたらした」とチューリッヒ映画祭の審査員は述べている。監督としての活動に加え、ラウはテレビ評論家、講師、そして非常に多作な作家でもあり、これまでに15作品を出版し、それらは英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、中国語、ノルウェー語などに翻訳されている。ラウの文学作品はドイツでもっとも権威ある文学賞のいくつかを受賞している。 www.ntgent.be



FT レーベル

映像

『Me, My Mouth and I』

ジェス・トム / トウレットヒーロー

出演：ジェス・トム
監督：ソフィー・ロビンソン

 調整中

 オンライン

アーティスト、アクティビスト、パフォーマーであり、トウレット症候群（チック症）をもつジェス・トム。ベケットによるモノログ『Not I（わたしじゃない）』の“口”役を演じるプロセスを通じて、障害と表現、社会的排除について、真摯に情熱的に問いかけるドキュメンタリー映像の配信です。

ジェス・トム

作家、ヴィジュアル／パフォーマンスアーティスト、パートタイムのスーパーヒーロー。トウレット症候群（チックの一種）をもって生きてきた経験への創造的なレスポンスとして、2010年にトウレットヒーロー（Touretteshero）を共同設立。パフォーマンス活動やさまざまなメディアへの露出を通して、トウレット症候群への理解を深め、障がいや他者との違いをオープンに語り合う場をつくり、障がいの権利や社会的公正を訴えている。2018年の映像作品『Me, My Mouth and I』はBBC2で放映され、その後アメリカ、ロシア、チリ、スイス、カナダなどで上映されている。著書に『Welcome to Biscuit Land – A Year In the Life of Touretteshero』（2012）。

www.touretteshero.com

東京芸術祭 2021 では、
このほかにも映像配信やトーク・ディスカッションなどの
オンラインプログラムを、複数実施予定です。

東京芸術祭ファーム

このたび、東京芸術祭の人材育成プログラムとしてアジア次世代の作り手たちの協働と実験の場として人材や作品、国籍や文化を超えたネットワークを生み出してきた“APAF(Asian Performing Arts Farm)”は、これまで東京芸術祭及びフェスティバル / トーキョーが取り組んできた研究開発・教育普及プログラムを組み込んで、より裾野を広げ高みを目指す“東京芸術祭ファーム(Tokyo Festival Farm)”へとバージョンアップします。

ディレクター体制も APAF から引き続きディレクターとして多田淳之介、新たに共同ディレクターとして長島確を加えた2名体制へ、さらに APAF2020 から導入したコミュニケーションデザイン制度を基にガイドラインを策定し、異なる他者へのリスペクトを前提としたコミュニケーションの徹底、個々がクリエイティビティを発揮できる環境作りとハラスメント防止にも積極的に取り組んでまいります。

これまでも舞台芸術は異なる他者と協働し、様々なボーダーを超えてきました。グローバル化が進み、通信手段や移動手段の発達によって異なる他者がより身近になった現在は、国籍や民族、言語などの枠組みが融解しはじめ多様な個がフィールドを行き交う“トランスカルチャー／トランスフィールド”環境が進んでいます。「国際的」という言葉の意味も「普段は混ざってない異文化が混ざること」「国外でも流通すること」から、「日常的に異なるものが混ざり合い複雑化したこの世界の価値観を提示すること」へと変わっていくでしょう。そして舞台芸術の役割もこの世界を映す鏡として変化していくのを感じています。

東京芸術祭ファームの「国際的」な次世代育成の場としてのミッションは、ボーダーの融解するトランスフィールド／トランスカルチャー環境を体感し、様々な価値観と出会いながらこの複雑化した世界を捉える力を育み、国や文化を超えて様々なフィールドをトランスし活躍する人材の輩出、そのための持続可能な環境作りです。それが世界中で多様化と同時に生まれている「分断」に対抗していくものになると信じています。

2021年、未来に向けバージョンアップした舞台芸術のファームを、どうぞよろしくお願いいたします。

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介

2021 テーマ「都市の価値／ Why Cities?」

東京芸術祭ファームの前身である APAF (Asian Performing Arts Farm) では、昨年の APAF2020 は “Anti-body Experiment” というテーマのもと、オンラインの可能性とリアルな身体を捉え直し「集まらないこと」への抗体を作る実験を行いました。今年の東京芸術祭ファーム 2021 では、COVID-19 の感染(拡大/収束)状況の違いが残る世界を背景に、“都市の価値／ Why Cities?” というテーマを掲げます。これは国や地域ごとに固有のキャラクターを持ちながらも、経済や効率、消費と生産、そして感染症拡大リスクという共通の 이슈を持つ「都市」をめぐる、これからの生き方についての問いかけです。何が違って、何が変わらないのか。私にとって。私たちにとって。あなたにとって。あなたたちにとって。様々なサイズや距離によっても揺らいでいく「価値」は誰のものなのか。プログラム参加者も観客も、ファームを訪れる異なる者たちで共に考えるためのトリガーです。

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介

東京芸術祭ファーム2021 ラインアップ一覧

ラボ(研究開発)

プログラム名	Farm-Lab Exhibition		Asian Performing Arts Camp		The City & The City: Mapping from Home	
内容	過去のAPAF参加者を中心にアジアから公募で集まった、異なる文化的背景や問題意識・創作手法を持つメンバーたちが協働して、多様な価値観からなる次世代の 国際共同作品の創作に挑み、ワークインプログレスを発表。		アジア各地の舞台芸術の作り手たちが、それぞれの問題意識を持ち寄り、ディスカッションやレクチャーなどを通じて異なる視点を得ながら 各自のリサーチを掘り下げていくアートキャンプ。		2つの都市の参加者がチームを組み、リサーチと交流を通して都市を再発見し、今後の活動の糧としていくプログラム。バンコク国際舞台芸術ミーティング(BIPAM)と連携。	
使用言語	日英 ※通訳有	35歳以下	英	35歳以下	日タイ ※通訳有	35歳以下

地域や分野を超えて活躍していくためのステップとして、自分とは異なる出自・価値観・専門をもつ他者と協働して進める、プロセス重視の研究開発の場です。

インターン(研修)

プログラム名	制作インターン	アートランスレーターアシスタント
内容	芸術祭の制作スタッフの働き方・考え方を学ぶ研修プログラム。	舞台芸術に特化した通訳になるために、ファーム内の通訳担当者などの補助業務をしながら実地で学ぶ有償アシスタント。

国際フェスティバルでの現場研修を通じて、舞台芸術のスタッフを目指す人が実践的な経験を積みながら学ぶ場です。

スクール(教育・学習)

プログラム名	Young Farmers Forum	ダイアログ・プラス	学生観劇プログラム
内容	海外での活動が未経験または浅い若手アーティストを対象に、ファームの国際的なプログラムに帯同し、現場の見学や補助、レクチャー・聴講、レポートの執筆などを通じて、国際的な活動への最初のステップをつくるためのプログラム。	アーティストや参加者同士の対話を通じて舞台芸術の理解を深める学生向けワークショップ。	大学の授業と連携し、観劇・レクチャー・座談会・レポートなど、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供。

国内外の刺激的な作品の観劇、そこからさらに一步踏み出す対話やレクチャーを通じて、舞台芸術のさまざまな可能性と出会うための入口です。



Photo: Ralph Lumbres

Farm-Lab Exhibition

Farm-Lab Exhibition ディレクションチーム：
ネス・ロケ（フィリピン）、敷地理（日本）

ひとりではたどり着けない場所へ

トランスカルチャーを背景に国際コラボレーション作品の可能性を拓き、今後、東京芸術祭や国際的なステージでの上演を目指し、創作トライアルを行う人材育成プログラムです。様々なバックグラウンドを持つメンバーが相互に刺激し合い、これまでの経験とは違った創作方法やコミュニケーションへのトライ、また観客からのフィードバックを通じて、作品やアーティスト自身のステップアップを目指します。

7月下旬-11/1(月)



オンライン/
東京芸術劇場 アトリエーエスト、
アトリエウエスト ほか

成果発表（一般公開）

10月下旬



東京芸術劇場 アトリエーエスト/アトリエウエスト

ネス・ロケ(フィリピン)

1991年生まれ。フィリピン・エンゼルス市出身。舞台・映画俳優、ドラマトゥルク、エドゥケーター。マニラを拠点とするコンテンポラリー・パフォーマンス・カンパニー Sipat Lawin Ensemble (2009-2018) の中心メンバー。フィリピンやアジア太平洋地域の様々なプロジェクトで参加型アートやリサーチの実践、コミュニティの運営、教育を統合するかたちで活動する複合領域的な集団 Prodx Artist Community の一員として活動。文部科学省の奨学金を受け、現在東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻に在籍。近年は音に基づくパフォーマンスティブなジェスチャーを都市空間におけるサイト・スペシフィックな介入として探究している。APAF2020 Lab のメンバー。www.nessoque.com

敷地理(日本) しきち・おさむ

1994年日本生まれ。振付家・ダンサー。武蔵野美術大学彫刻学科卒業、東京藝術大学大学院修士課程修了。身体をメディアとして、強い現実感を生むことを主題に作品制作を行う。YDC2020 若手振付家のための在日フランス大使館賞受賞。主な作品に『ハッピーアイスクリーム』(YDC2020)、『振動する固まり、ゆるんだ境界』(TPAM2020 Fringe)、『blooming dots』(豊岡演劇祭 2020 フリンジ / CAF 賞 2020 / TPAM2021 Fringe)、『Juicy』(YDC2021) など。APAF2018 アートキャンプ参加者、APAF2019 Exhibition『ASIA/N/E/SS』美術として、過去2回 APAF に参加。
mumumubrothers.wixsite.com/osamu-shikichi

Asian Performing Arts Camp

アーティストキャンプ

プレゼンテーション

Asian Performing Arts Camp ファシリテーター：
JK アニコチェ(フィリピン)、山口恵子(日本)



8/25(水) - 11/1(月)



オンライン

最終公開プレゼンテーション

10月下旬



オンライン

ボーダーを越えて、身体を超えて、アジアの舞台芸術の未来へ

アジア各地で活動する舞台芸術の人材がそれぞれのフィールドでの問題意識やリサーチテーマを持ち寄り、文化や国籍を超えたディスカッション、共同リサーチなどを通じて新たな価値観を育み、今後の自身の活動やフィールドを耕していくためのアートキャンプです。2021年度は新型コロナウイルス感染症によるアジア各国の状況も踏まえ、オンラインで実施します。

JK アニコチェ(フィリピン)

マニラを拠点に芸術、文化、社会発展を交差させる活動を行うパフォーマンス作家。活動はブラックボックスでのパフォーマンス創作の開発から様々なコミュニティとの関わりを通じた作品の考案制作まで多岐にわたる。現代文化研究団体である Sipat Lawin Inc. の芸術監督であり、分野にとらわれないパフォーマンス集団、Komunidad X のメンバー。またカルナバル・フェスティバル：パフォーマンスとソーシャル・イノベーションのディレクターを務め、the Virgin Labfest Virtual Edition 2020 や kXchange.org. などにも関わる。近年では、ニューヨーク、台湾、上海でも活動し、日本ではフェスティバル/トーキョー 19 で、体験型パフォーマンス『Sand (a)isles』を発表。共同ファシリテーターとして APAF2020 Lab に参加。

山口恵子(日本) やまぐち・けいこ

京都在住、俳優。2011年に演劇グループ BRDG を立ち上げ、インタビューやフィールドワークを元に、多文化・通訳に焦点を当てた作品を創作。2020年に日本・フィリピンの青少年と、フィリピンの劇団 PETA と協同で『ふれる〜ハプロス』を発表、オンライン作品『HELLO』を配信した。俳優として、松本雄吉、マレピトの会、したため、りっかりっか*フェスタ(沖縄)の作品に出演する。2017年アジアセンターフェロー。APAF2020 Lab に参加。2021年より青年団演出部所属。京都・東九条のコミュニティカフェほっこりで店員として働きながらラジオを放送したり、NPO 法人スウィングでなんちゃって舞妓をしている。

ラボ

アートプロジェクト

研究開発



The City & The City: Mapping from Home

パートナー：BIPAM (バンコク国際舞台芸術ミーティング)

ステイホームから都市をリサーチする、 東京・バンコク間のオンライン交流プログラム

東京芸術祭ファームと BIPAM がホストとなり、都市のリサーチを軸に、オンラインで交流と協働を行うプログラムです。東京／バンコクを拠点に活動するアーティストやリサーチャーが発見物の共有とディスカッションを重ね、9月に成果報告会を開きます。家を起点とすることで、個々人のアイデンティティと都市との結びつきを探ります。

7/8(木) - 9/23(木・祝)

ターナーギャラリー
一部オンラインの可能性あり

最終成果プレゼンテーション

9/17(金) - 9/20(月・祝)

ターナーギャラリー(日曜休館)

BIPAM (バンコク国際舞台芸術ミーティング)

タイ・バンコクで開催されている、舞台芸術の創造にかかわる人々のためのグローバルなプラットフォーム。

バンコクシアターネットワーク (BTN)、タイ国際批評家センター (IATC)、タイ高等教育舞台芸術連盟 (PATH) の連携により、2017年から毎年秋に開催。今回の交流プログラムでは、アーティストック・ディレクターで、俳優、演出家、プロデューサーとしても活動するササビン・シリワーニットが、バンコク側のキュレーションを担当。

<https://www.bipam.org/>



インターン

制作インターン

8/1(日) - 11月中旬

オンライン／東京芸術劇場／
あうるすぽっと／
ほか豊島区内各所

※感染状況等を考慮した上で
変更になる場合あり

国際芸術祭の制作スタッフの働き方・考え方を 夏から秋にかけて学ぶ研修プログラム

芸術祭には、アーティストや技術スタッフだけでなく、運営を支える多くの制作スタッフ関わっています。その業務は事前の準備から当日の運営、片付け・精算作業まで、多岐にわたります。この研修プログラムでは、リサーチ型国際交流プログラム、商店街や公園で実施するアートプロジェクトなどの実地研修に加えて、舞台芸術に携わるための知識を養う各種講座を実施します。



インターン



アートトランスレーターアシスタント

コミュニケーションデザインチーム：Art Translators Collective
 (チーフ：田村かのこ メンバー：山田カイル、春川ゆうぎ、森本優芽、水野 響、樺山智子)

未来のアートトランスレーターのための実践の場

7月中旬-11月中旬



オンライン/
 東京芸術劇場 アトリエイースト、
 アトリエウエスト ほか

今、国際協働企画においてコミュニケーションの観点から現場の場づくりをする「アートトランスレーター」の役割や重要性が認識され、その評価が高まってきています。未来のアートトランスレーターのための経験の場として、通訳・コミュニケーション業務をサポートする「アートトランスレーターアシスタント」を募集します(有償)。言語の変換にとどまらず、多文化・多言語間の創作のつなぎ手となる重要な役目です。実際の国際協働の現場で若手アーティスト等と連携しながら、コミュニケーションデザインチームのもとで実践的な経験を積み、ノウハウを深める機会です。

コミュニケーションデザインチームについて：

東京芸術祭ファーム「Farm-Lab Exhibition」「Asian Performing Arts Camp」のコミュニケーションデザインをアート専門の通訳・翻訳者による活動団体「Art Translators Collective」がチームとして担当。舞台芸術、現代アートを中心にさまざまな創作の場で、多様な表現者とそこに関わる人々のつなぎ手を務めてきたアートトランスレーターたちが、その知見を活かし、それぞれのプログラムに必要とされるコミュニケーションのあり方を提案する。ディレクター、参加アーティスト、ファシリテーターなどと連携しながら、それぞれの出自・立場・参加形態に関わらず参加者・関係者全員が公平に安心して創造に参加できるコミュニケーション環境の構築を目指す。

スクール



Young Farmers Forum

7/21(水)-11月中旬



オンライン/
 東京芸術劇場 アトリエイースト、
 アトリエウエスト ほか

20代までのアーティストたち、最前線を体感せよ！

日本を拠点に活動する20代までの舞台芸術の人材が、国際協働について知見を深めるためのプログラムです。東京芸術祭ファームの国際的なプログラムに帯同し、現場の見学や補助、レクチャー受講、海外アーティストとの交流等を通じて、新たなビジョンの獲得や国際的な活動へのステップをつくることを目指します。



スクール

教育普及



ダイアログ・プラス

総合監修・ファシリテーター：中尾根美沙子

東京芸術祭開催期間中



調整中

アーティストや参加者同士の対話を通じて 舞台芸術への理解を深める学生向けワークショップ

このプログラムは観劇と対話をセットに設計されたワークショップです。専門家のファシリテーションのもと、観劇後にアーティストや同年代の参加者から話を聞き、双方に意見を交換することは、物事を多角的に捉え、考える機会となるでしょう。参加学生の専攻は不問ですが、全プログラムに参加できることが条件です。詳細は7月中旬に発表します。

中尾根美沙子 なかおね・みさこ

青山学院大学社会情報学研究所特別研究員／東京芸術大学非常勤講師／天理医療大学非常勤講師／ワークショップデザイナー育成プログラム事務局スタッフ。NPO 学習環境デザイン工房のスタッフとして学校やミュージアムを舞台にワークショップの企画・運営を行っているかたわら、青山学院大学社会情報学研究所特別研究員としてワークショップの研究に携わる。

近年、行政・大学・地域と協働した実践を企画・運営として、子どもたちのコミュニティと学習環境のデザインを手がけている。その他リアルコミュニケーションツールの開発にも関わり、グッドデザイン賞やキッズデザイン賞など多数受賞。

スクール

教育普及



学生観劇プログラム

連携：東京演劇大学連盟

東京芸術祭開催期間中



オンライン／
東京芸術祭会場内

舞台作品を通して、考え、交流する 学生のための観劇プログラム

東京演劇大学連盟所属大学を中心とした大学の授業と連携し、観劇・レクチャー・座談会・レポート作成などを実施します。舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。一部のプログラムは個人での参加も可能です。

東京演劇大学連盟

演劇の実技教育を担う都内の5つの大学が集い、2013年春に設立した連盟。5つの大学が連携し、演劇の実技教育及び舞台芸術創造の体系化構築を目指した活動を展開している。

【所属大学】

桜美林大学芸術文化学群演劇・ダンス専修

玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科／演劇・舞踊学科

多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科

桐朋学園芸術短期大学演劇専攻

日本大学芸術学部演劇学科

2021年 7/2(金)現在
開催順

日程	名称	ジャンル	言語・字幕有無	会場	掲載ページ
東京芸術祭 プログラム					
9/1(水)、9/4(土) (予定)	観劇サポート講座	レクチャー	日本語	あうるすぽっと会議室	P.5
9/23(木・祝)	近藤良平・コンドルズ『にゅ～盆踊り』	ダンス		東京建物Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場)	P.5
10/3(日)	みんなのシリーズ第六弾 能でよむ～漱石と八雲～	伝統芸能 (複合・創作)	日本語	あうるすぽっと	P.6
10/3(日)	みんなのシリーズ第六弾 能でよむ～漱石と八雲～ スペシャルトーク	トーク	日本語	あうるすぽっと	P.6
10/6(水) - 10/8(金)	From the Farm 『フレフレ Ostrich!! Hayupang Die-Bow-Ken !』	演劇/パフォーマンス	日本語、英語、インドネシア語/字幕有(英語または日本語)	南大塚ホール/オンライン	P.7
10/8(金) - 11/7(日)	Hand Saw Press『つながる! ガリ版印刷発信基地』	アートプロジェクト	日本語	豊島区内各所(予定)	P.7
10/9(土)(予定) - 10/17(日): 上演 後日アーカイブ配信あり	ロロ『Every Body feat. フランケンシュタイン』	演劇	日本語	東京芸術劇場 シアターイースト/オンライン	P.8
10/9(土) - 10/10(日) ※各地で事前ワークショップあり	移動祝祭商店街 歩く庭	アートプロジェクト	日本語	豊島区内	P.8
10/14(木) - 10/17(日)	おどる演劇『十二夜』(仮)	演劇	日本語	あうるすぽっと	P.9
10/17(日) - 10/24(日)	野外劇 『ロミオとジュリエット』	野外劇	日本語	GLOBAL RING THEATRE (池袋西口公園野外劇場)	P.4
10/19(火) - 10/28(木) (予定)	太陽劇団 『金夢島 L'ÎLE D'OR KANEMU-JIMA』(仮題)	演劇	フランス語/日本語字幕	東京芸術劇場 プレイハウス	P.3
10/22(金) - 10/24(日): 上演 後日アーカイブ配信あり	Baobab『ジャングル・コンクリート・ジャングル』	ダンス	日本語	あうるすぽっと/オンライン	P.9
10/22(金) - 10/24(日): 上演 後日アーカイブ配信あり	きたまり/KIKIKIKIKIKI 『老花夜想(ノクターン)』	ダンス		東京芸術劇場 シアターウエスト/オンライン	P.10
10/31(日)	民俗芸能inとしま2021 まつりのおとがきこえる	民俗芸能/音楽		GLOBAL RING THEATRE (池袋西口公園野外劇場)	P.10
11/13(土)-12/5(日)(毎週土日)	としまおやこ小学校	アートプロジェクト	日本語	あうるすぽっと会議室	P.11
11/19(金)	第34回 としま能の会	能・狂言		東京芸術劇場プレイハウス	P.11
調整中	ガチャガチャガチャ	アートプロジェクト	日本語	豊島区内各所	P.12
調整中	The New Gospel - 新福音書 -	映像	イタリア語/フランス語/英語/日本語字幕	オンライン	P.12
調整中	Me, My Mouth and I	映像	英語/日本語字幕	オンライン	P.13

2021年 7/2 (金)現在
開催順

日程	名称	ジャンル	言語・字幕有無	会場	掲載ページ
東京芸術祭ファーム					
ラボ(研究開発)					
7/8(木) - 9/23(木・祝) 最終成果プレゼンテーション 9/17(金) - 9/20(月・祝)	The City & The City: Mapping from Home	アートプロジェクト/ 人材育成/ 研究開発プログラム	日本語/タイ語	ターナーギャラリー/ 一部オンラインの可能性あり	P.17
7月下旬 - 11/1(月) 成果発表(一般公開): 10月下旬	Farm-Lab Exhibition	人材育成/パフォーマンス	日本語/英語	オンライン/ 東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト	P.16
8/25(水) - 11/1(月) 最終公開プレゼンテーション: 10月下旬	Asian Performing Arts Camp	アーティストキャンプ/ 人材育成	英語/一般公開イベントには日英通訳あり	オンライン	P.16
インターン(研修)					
7月中旬 - 11月中旬	アートトランスレーターアシスタント	人材育成	日本語/英語	オンライン/東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト ほか	P.18
8/1(日) - 11月中旬	制作インターン	人材育成	日本語	オンライン/東京芸術劇場/ あうるすぽっと/ほか豊島区内各所	P.17
スクール(教育・学習)					
7/21(水) - 11月中旬	Young Farmers Forum	人材育成	日本語	オンライン/東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト ほか	P.18
東京芸術祭開催期間中	ダイアログ・プラス	人材育成/ 教育普及プログラム	日本語	調整中	P.19
東京芸術祭開催期間中	学生観劇プログラム	人材育成/ 教育普及プログラム	日本語のみ	オンライン/東京芸術祭会場内	P.19

※記載内容は 2021 年 7 月 2 日現在の情報です

※プログラムの内容等は変更になる場合があります

東京芸術祭は 2018 年より、宮城聡総合ディレクターと各事業のディレクター 7 人が協働する「プランニングチーム」によって展開されています。



総合ディレクター

宮城 聡 みやぎ・さとし

演出家。SPAC- 静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京芸術祭総合ディレクター。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990 年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007 年 4 月 SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017 年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『女王メデア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2006～2017 年 APAF アジア舞台芸術祭(アジア舞台芸術ファーム) プロデューサー。2019 年東アジア文化都市 2019 豊島舞台芸術部門総合ディレクター。2004 年第 3 回朝日舞台芸術賞受賞。2005 年第 2 回アサヒビール芸術賞受賞。2018 年平成 29 年度第 68 回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019 年 4 月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。



副総合ディレクター (東京芸術祭プログラム FTレーベル、東京芸術祭ファーム)

長島 確 ながしま・かく

ドラマトウルク。立教大学文学部フランス文学科卒。大学院在学中、ベケットの後期散文作品を研究・翻訳するかたわら、字幕オペレーター、上演台本の翻訳者として演劇に関わる。その後、日本におけるドラマトウルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年はアートプロジェクトにも積極的に関わる。参加した主な劇場作品に『アトミック・サバイバー』(阿部初美演出)、『4.48 サイコシス』(飴屋法水演出)、『フィガロの結婚』(菅尾友演出)、『効率学のススメ』(ジョン・マグラウ演出)、『DOUBLE TOMORROW』(ファビアン・プリオヴィル演出) ほか。主な劇場外での作品・プロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、『長島確のつくりかた研究所』(ともに東京アートポイント計画)、『ザ・ワールド』(大橋可也&ダンサーズ)、『←(やじるし)』(さいたまトリエンナーレ 2016、さいたま国際芸術祭 2020)、『半七半八』(中野成樹+フランケンズ)、『まちと劇場の技(わざ)交換所』(穂の国とよはし芸術劇場 PLAT) など。訳書に『新訳ベケット戯曲全集』(監修・共訳) ほか。フェスティバル/ トーキョー 18～20 ディレクター。東京藝術大学音楽環境創造科特任教授。

※以下共同ディレクターは五十音順



共同ディレクター(東京芸術祭プログラム FTレーベル)

河合千佳 かわい・ちか

武蔵野美術大学卒。劇団制作として、新作公演、国内ツアー、海外共同製作を担当。企画製作会社勤務、フリーランスを経て、2007 年、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン(ANJ)入社、川崎市アートセンター準備室に配属。「芸術を創造し、発信する劇場」のコンセプトのもと、新作クリエイション、海外招聘、若手アーティスト支援プログラムの設計を担当。また同時に、開館から 5 年間にわたり、劇場の制度設計や管理運営業務にも携わる。2012 年、フェスティバル/ トーキョー(F/T)実行委員会事務局に配属。日本を含むアジアの若手アーティストを対象とした公募プログラムや、海外共同製作作品を担当。また公演制作に加え、事務局運営担当として、行政および協力企業とのパートナーシップ構築、ファンドレイズ業務にも従事。F/T15～17 副ディレクター、F/T18～20 共同ディレクター。日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師(2017 年～)。



共同ディレクター (東京芸術祭ファーム)

多田淳之介 ただ・じゅんのすけ

1976 年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで現代社会の当事者性をフォーカスしアクチュアルに作品を立ち上げる。子どもや演劇を専門としない人とのワークショップや創作、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を基にボーダレスに活動する。2010 年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、2019 年 3 月まで 3 期 9 年務める。2014 年「가모메 칼메기」が韓国の第 50 回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。2019 年東アジア文化都市 2019 豊島舞台芸術部門事業ディレクター。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。

Photo: 平岩亨


共同ディレクター(東京芸術祭プログラム 芸劇オータムセレクション)
内藤美奈子 ないとう・みなこ

プロデューサー。東京大学文学部卒業。1985年よりパルコ劇場にて、1998年よりホリプロ・ファクトリーにて、2010年より東京芸術劇場にて、演劇・ダンス・ミュージカル・国際共同制作等の企画制作、海外公演の招聘などに従事。手がけた主な作品に、「THE BEE English Version」「One Green Bottle」(野田秀樹作・演出、国際キャスト)世界ツアー、「トロイアの女たち」(蜷川幸雄演出/東京芸術劇場・テルアピブ カメラ劇場共同制作)、「おのれナポレオン」(三谷幸喜作・演出)、「リチャード三世」(シルヴィウ・プルカレーテ演出)、「ラヴ・レターズ」(青井陽治演出)、ミュージカル「ファンタスティックス」(宮本亜門演出)、「タデウシュ・カントール & Cricot2 “くたばれ芸術家” “私は二度と戻らない”」・プロドゥエイ・ミュージカル「CHICAGO」・ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーなどの来日公演。


豊島区事業ディレクター
酒井 快 さかい・かい

公益財団法人としま未来文化財団 企画制作部 事業企画第1課 事業企画グループ主任。豊島区出身。日本大学芸術学部演劇学科卒業。2013年より公益財団法人としま未来文化財団所属。芸術文化による地域活性化事業等に取り組み、2018年より現グループ所属。東京芸術祭の内、豊島区によるプログラム「としま能の会」(1988年の第1回開催から区の古典芸能鑑賞・普及事業として展開され、今年で34回を迎える)制作担当。


豊島区事業ディレクター
師岡斐子 もろおか・あやこ

公益財団法人としま未来文化財団 企画制作部 事業企画第2課 企画運営グループ主任。埼玉県飯能市出身。豊島区在住。埼玉県立芸術総合高等学校舞台芸術科卒業。日本大学芸術学部演劇学科卒業。卒業時に卒業制作の成果として川野希典賞受賞。卒業後、日本大学芸術学部演劇学科研究室に助手として入職。学生時代を含め演劇教育機関にて10年間過ごす。任期満了後、民間の指定管理者にて勤務、フリーランスなどを経て、東京芸術劇場 研修生。2015年にとしま未来文化財団入職。これまでにアーツカウンシル東京 調査員(舞踊・伝統芸能分野)、東京芸術祭実行委員会事務局員(2019～2020年度)など。


リサーチディレクター
横山義志 よこやま・よしじ

1977年千葉市生まれ。中学・高校・大学と東京に通学。2000年に渡仏し、2008年にパリ第10大学演劇科で博士号を取得。専門は西洋演技理論史。2007年からSPAC- 静岡県舞台芸術センター制作部、2009年から同文芸部に勤務。主に海外招聘プログラムを担当し、二十数カ国を視察。2014年からアジア・プロデューサーズ・プラットフォーム(APP)メンバー。2016年、アジア・センター・フェローシップにより東南アジア三カ国視察ののち、アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)グランティーターとしてニューヨークに滞在し、アジアの同時代的舞台芸術について考える。学習院大学非常勤講師。論文に「アリストテレスの演技論 非音楽劇の理論的起源」、翻訳にジョエル・ポムラ『時の商人』など。舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)理事、政策提言調査室担当。

東京芸術祭とは 2016 年に開始した、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した都市型総合芸術祭です。東京の芸術文化の魅力を分かりやすく見せると同時に、東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。

- 名 称： 東京芸術祭 2021(英語名称：Tokyo Festival 2021)
会 期： 2021(令和3)年 9 月 1 日(水)～ 11 月 30 日(火) 91 日間
会 場： 東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE(池袋西口公園野外劇場)、
東京建物 Brillia HALL(豊島区立芸術文化劇場)、
あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)ほか東京・池袋エリア
プログラム数： 公演・アートプロジェクト・人材育成 計 27 プログラム(予定)、他に関連企画を予定
主 催： 東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、
公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)〕

SDGs 未来都市豊島区



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



公益財団法人
としま未来文化財団
TOSHIMA MIRAI CULTURAL FOUNDATION

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO 



令和3年度文化庁
国際文化芸術発信拠点形成事業

東京芸術祭実行委員会事務局

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28 九段ファーストプレイス8F アーツカウンシル東京内 TEL: 050-1746-0996 (平日 10:00-18:00)

■東京芸術祭に関する最新情報を随時配信いたします

| Web サイト <https://tokyo-festival.jp/>

Facebook @tokyofestivalsince2016 / Twitter @tokyo_festival / Instagram @tokyo_festival

< 報道関係お問合せ先 >

▶本プレスリリースの pdf や画像データをご入用の場合は下記までお知らせください。
※画像の掲載、東京芸術祭や作品に関する情報を掲載いただける折には、
下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

▶東京芸術祭・本リリース・記者発表に関するお問い合わせ

東京芸術祭実行委員会事務局 広報担当(小倉、岡野、名取)

TEL: 050-1746-0996

E-MAIL: press@tokyo-festival.jp

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28 九段ファーストプレイス8F アーツカウンシル東京内